

今日のみ言葉 258 「私の受けた苦しきは平安のため」 2016.2.16

ああ、私の受けた苦しきは 平安のためだった。
あなたは、滅びから、私のたましいを引き戻してくださった。
あなたは私のすべての罪を、あなたの後に投げ捨ててくださった。

(イザヤ書38の17)

Surely it was for my peace that I suffered such anguish. In your love you kept me from the pit of destruction; you have put all my sins behind your back.

今から2700年ほども昔にすでにこのような深い魂の体験が語られていることに驚かされる。私たちが、だれでもこの世に生きる過程で体験する数々の痛みや悩み、そして悲しみは無意味には生じていない。

それは神が私たちに、魂の平安を、平和を与えるためであるという。この平安とか平和と訳される原語（ヘブル語）は、シャーロームであるが、この語の動詞形は、「完成する、全うする」という意味をもっているため、神からの恵み、祝福によって魂が満たされ、平安を与えられた状態のことである。

自分が経験した苦難も、神がそのような何にも動かされないような平安の世界へと導くためであるとの言葉（詩）を書いた王は深く知らされた。

これは、死の病からいやされた王の歌（詩）であったが、その背後に神の御手があり、神がいわば語らせた言葉であったゆえに、聖書のなかにおさめられている。聖書はまことに、魂の体験の書であり、単に頭で考えたこと、意見、あるいは、...だろうといった推察などではない。

そして、この詩の作者である王はその苦難、苦しみの深いところには、自分自身の罪があったのを知っていた。その罪を清めてくださった神への深い感謝がある。 私たちも自分がいかに正しい道からはずれていたか、いかに狭いところしか見えていなかったか、愛なきもの、真実なきものであったか しばしば苦しい病気や苦難に遭ってはじめて深く知らされる。

それゆえに、魂の深い平安は罪の赦しと不可分に結びついているのであって、人間の深い罪の赦しのためにキリストは十字架につけられることまでされたのであった。

主イエスも、その最後の夜に語られた言葉の締めくくりとして、次のように言われている。

...これらのことを話したのは、あなた方が私によって平安（平和）を得るためである。

あなた方はこの世では痛みがある。

しかし、勇気を出しなさい。 私は世に勝利している。（ヨハネ福音書16章33節）



このツバキは、わが家のある山のもので、ツバキの仲間には日本、中国、インドネシアなどに広く分布しています。日本では北海道以外の各地の里山にもみられ、昔から広く親しまれてきた花です。冬の寒さの中で見るこの花は、緑濃く、堅くて厚い葉に似合う厚く、真紅の花びらを付けて、花のない冬の山にあざやかな彩りを添えています。完全な芸術家としての神の御手がこの花にも印象的です。もう60年以上も昔の子供のとき、山で遊ぶことも多くその折りに、このツバキの花をとってその花の奥にある蜜を吸ってその甘さに不思議な思いをしつつ喜んで取っていたのを思い出します。この写真のツバキにもヒヨドリが来て、食べ物のほとんどない冬の林での貴重な栄養源としている姿をみました。すでに万葉集の昔から、鑑賞用だけでなく、その材も、種も葉も有用な植物であり、その種から造る椿油は食用のほか、化粧品、薬品、また石鹼などの原料としても用いられる重要なものです。そしてさまざまな品種も造られ200種にも及ぶとのこと。

ツバキの仲間として、とくに毎日の食卓に不可欠のもの それは茶です。茶の花やその葉をみれば、すぐにツバキの仲間だとわかります。

そしてサザンカもツバキ科の植物として広く親しまれています。野生のサザンカは、白い花で、部分的に淡い桃色をまじえているとのことですが、写真でみると白い花として見えます。日本では、野生のものは、山口県、四国南部から九州中南部、南西諸島（屋久島から西表島）等に少数みられるだけなので、じっさいにその白い花見たことのある人は少ないのではないかと考えられます。

この写真にあるような、山中に咲く野生のツバキ、それは神の直接の作品であるだけに、私にはどのような園芸品種よりも心惹かれるものがあります。この花をじっと見ているだけで、静かに語りかけてくるものがあり、魂の栄養となる思いです。

（文、写真ともT.YOSHIMURA）